

様式第2号

視察研修先	石川県かほく市	氏名	古沢清志
視察研修項目	公立保育施設の紙オムツのサブスク「手ぶら登園」について		
概 要	石川県のほぼ中央に位置し、金沢市の北約20kmに位置しています。西に風光明媚な日本海を望み北部では大海川が日本海に、南部では宇ノ木川が河北潟に注ぎ、これらの地形と一体となった緑豊かな自然環境です。		
目的・主旨	①移住してくれた子育て世帯の満足度を上げ、長く住んでいただくための「保育の質」の向上のため。 ②市内公立保育施設の保育士や保護者の負担を軽減するため。		
質 問 1 回 答	・子育て支援施策について、特徴的な取り組みを伺う。 ・北陸地方は降雪量が多いので、どんな天候の時でも子どもが遊べる屋内の場所を確保しようと、「あそびの森 かほくくる」を2021年4月にオープンした。遊びを通じた子どもたちの健康づくりや、ここで出会う人たちの交流を促進できるよう考えながら施設を整備しています。		
質 問 2 回 答	・紙おむつサブスクについて ・毎月定額でおむつやおしりふきを使い放題なので、保育士さん達は汚れたら気がねなく交換できる利点がある。		
質 問 3 回 答	・「手ぶら登園」導入の決め手はなにか。 ・かほく市が2021年に導入した「CoDMON」とシステム連携されていたのが、一つの決め手となった。すでに利用しているサービスの一環として導入すれば保護者の理解も得やすくなるのではないかと感じた。 「CoDMON」とは出欠席等の連絡がオンラインでできるシステム		
質 問 4 回 答	・サブスクによる保育士の意見は。 ・保護者から「使い過ぎ」という指摘を受ける心配がなくなったし、子どもにとっても衛生環境が良いとの意見。 ・子どもの成長に応じて保育士が自由にサイズ変更できるのはとても良い利点である。		
感 想	・私も子育てを終えてから、しばらく時間が経っておりますので、話を		

	聞いた時はあまりピンときませんでしたが、徐々に昔のことが思い出され話が飲み込めるようになりました。おむつのサブスクはとても良い案だと思います。保育士の方も気がねなく交換でき、衛生的だと感じてまいりました。
--	---

様式第2号

視察研修先	石川県加賀市	氏名	古沢清志
視察研修項目	ライドシェアによる新たな移動手段の提供について		
概 要	「加賀の国」は北陸の中心都市・金沢市の南西部、霊峰白山のふもとに広がる6市町の総称、九谷焼をはじめとする伝統工芸や各地の温泉郷、山海の幸など、白山の多くの恵みを受ける「加賀の国」には魅力がいっぱいである。		
目的・主旨	令和6年3月の北陸新幹線の金沢以西開業により、来訪者の増加が見込まれる中、バス・タクシー事業者のドライバー不足が深刻であり、増車を見込めない状況であるなか、このことを解消するため「自家用有償旅客運送」を行うことで、市民・観光客の移動手段を確保する目的で事業を進めた。		
質 問 1 回 答	・運行状況について伺う。 ・運行主体は加賀市観光交流機構が行っており、運行エリアは市内全域、運行時間は7:00～23:00までだが、金土は7:00～26:00、料金はタクシーの8割、支払いはスマホのアプリによるオンライン決済		
質 問 2 回 答	・利用者の客層は。 ・約4割の方がインバウンド		
質 問 3 回 答	・タクシー会社との問題点はないか。 ・問題点はないが、地域資源（ドライバーと車両）を総動員して、市民や観光客の誰もが、どこからどこにでも、いつでも自由かつ簡単・便利に移動できる交通体系を実現することを目指している。		
感 想	・加賀市については、新幹線延伸という大きなできごとがあったので、事業が進んでいたようでしたが、このことを本市に当てはめれば、少し無理があるのではないかと感じました。 しかし、私も近所の方との話し合いで高齢者の方は早めに免許証を返納したいが、なかなか近くのスーパーマーケットや病院に行くにしても自由が利かないので返納しにくいと言っていました。 ライドシェアも福祉に使えるものかとお聞きしましたが、福祉には福祉の予算があり、ましてやそちらのほうが多く補助してもらえるので、福祉にはあまり向かないのではないかという回答をいただ		

きました。

お忙しい中ご教示いただきましてありがとうございました。御市の
ますますのご発展をお祈りいたします。

様式第2号

視察研修先	福井県あわら市	氏名	古沢清志
視察研修項目	学力向上の取組について		
概 要	福井県の最北端に位置し、中央部にはJR芦原温泉駅と芦原温泉街を核とした2つの市街地を形成し、北陸地方の中でも比較的温暖で過ごしやすい地です。		
学力向上の取組み	①学力向上プランの作成 ②全国学力・学習状況調査終了直後からの対応 ・「振り返り表」による自己採点、全教員による分析結果の共有 ③指導主事学校訪問での授業公開、研究会、個別指導 ④市独自に学力調査を実施 ・東京書籍の学力調査を活用 全国学調と同じ日に小2～小5の4つの学年で実施 ⑤教科指導員（英語）、ICT教育指導員、特別支援指導員の配置 市予算でそれぞれ1名ずつ配置、市教委に在籍し、日常的に小中学校を回り学校支援、授業支援等を継続 ⑥小学校英語における教科担任制の導入 ・県費による加配教員2名（英語専科教員）6校を兼務 ・1校は校内の免許所有者が5、6年の英語を担当 ⑦ICTを活用した授業の推進 ・中学校には「プロジェクター」と小学校には「スクリーン式電子黒板」を設置 ・学習机を大型化		
二学期制の取組み	背景・経緯について ・授業時数の確保がねらい、導入前と後では年間60時間ほど増えている。 ・これまでは通知表をもらってすぐに夏休みや冬休みに入ると、休み中の頑張りがすぐには評価につながらない。 ・休み前に自身の努力目標を明確にし、長期休業中の学習意欲を高めたい。 導入による保護者からの意見 ・テストの回数が減ることは初めは心配したが、テスト範囲が広がったことで、より計画的に学習するようになった。 ・勉強や部活動に集中できるため、めりはりがついたように思う。		

感 想	・入試前のテストがないので集中して、受験勉強に取り組めている。 ・二学期制の導入には関心がありました、本市でも検討に値するものです。
------------	---